

「葦」第53号発刊に寄せて

奈良県立医科大学附属病院
看護部長 石飛 悦子

看護部が発刊している機関誌「葦」第53号を発刊する運びとなりました。

機関誌への寄稿の機会を頂けたことに感謝致します。

2023年5月より新型コロナウイルス感染症が5類へと移行しました。移行したとはいえ、隔離期間等は緩和されたもののコロナ感染症への対応は継続しています。コロナ感染症の流行に合わせた対応を行いながら、同時に県内唯一の特定機能病院の役割として高度な医療・看護を提供してきました。まさしく「状況の変化に対応し、変革と挑戦によって安全で安心できるまごころを込めた看護を提供する」という2023年度に掲げた目標を実践してきました。

看護職は、患者さんの言葉に耳を傾け、思いに寄り添いその人にとっての最善の看護を考えて、実践しています。看護を実践する中で看護ケアに関する疑問がわき、研究として取り組むことで問いについて明らかにしていきます。また、その疑問は先行研究を調べることで解決することもあります。このような取り組みが日常の看護のなかでなされることで、より良い看護の実践へと繋がっていきます。このような取り組みは、コロナ禍においても継続されてきました。今回、機関誌に掲載されたコロナの状況下での「面会に関する実践報告」「コロナ禍における助産ケアに関する実践報告」などの日常と異なった状況下でより良いケアを考えた取り組みが複数あります。また、日常ケアの質を高めるための基盤となる「教育に関する報告」「事例報告」など様々な観点からの取り組みがなされています。患者さんやご家族への最善の看護を考え実践した結果がまとめられており、日々の看護実践に関する意識の高さが伺え、看護の力を再確認することができました。

次に4年前に突然流行したコロナ感染症のように、社会・医療の状況は急速に変化し、その変化に合わせたケアの工夫が必要とされています。

わが国では、少子超高齢化の進行、人々の価値観の変化等により、健康上のニーズは増大し、多様化・複雑化しています。そのような状況の変化に対応できるように、看護職も柔軟な思考と新たな知識や技術を兼ね備え継続して学び続けることが求められています。

2023年6月、日本看護協会では、看護職の生涯にわたる学習活動を支えるために、これからの社会において活躍する看護職一人ひとりの生涯学習の羅針盤とすべく、新たに「看護職の生涯学習ガイドライン」が策定されました。

今後、看護職には、多岐にわたり状況に応じ創造的に考え看護を実践していくことが求められています。また、看護職自身も看護職一人ひとりが看護職として活躍し続けるためには、各自のライフイベントや価値観に応じて、仕事と生活の調和を図りながら自律的に学ぶことが求められます。

以上のように今回の取り組みの成果を看護職間で共有し、どのような状況にも対応できるように継続した学習と研究的な取り組みを行うことで看護の力を最大限に発揮できる看護部でありたいと願っております。